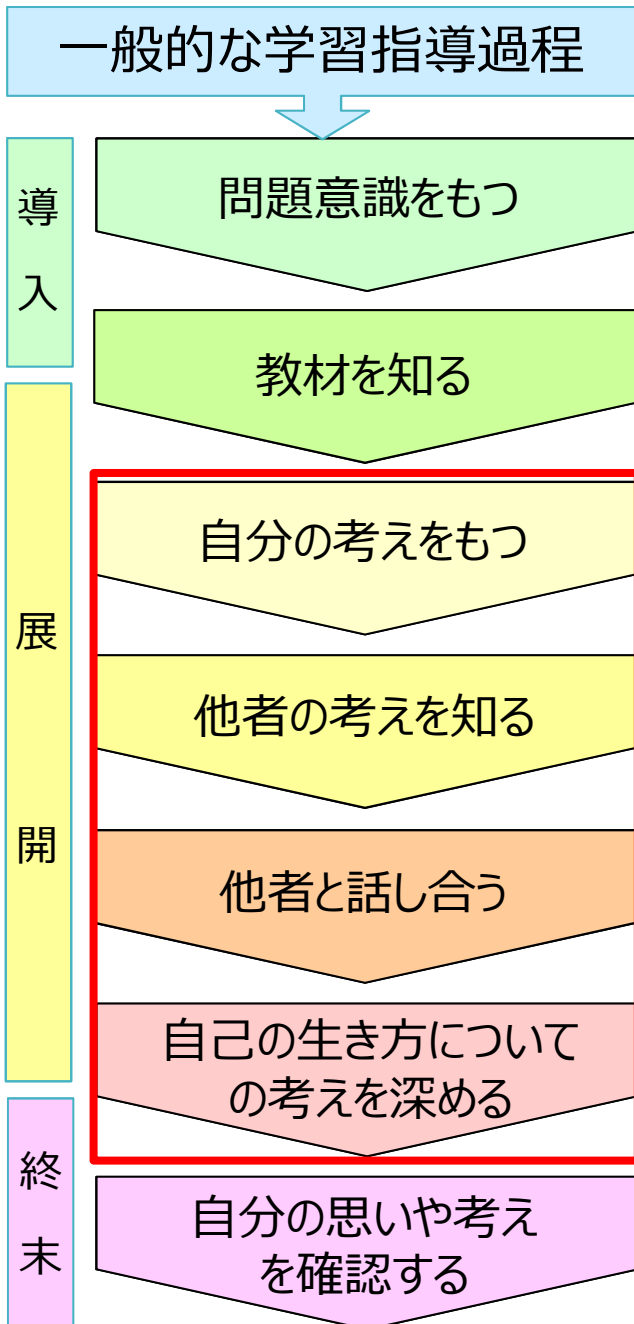


# 小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

## 内容項目：A 正直、誠実①



### 授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

### 活動のねらい

話し合いを通して自分の考えの変容を示し、学級全体に伝えることで、聞いている友達がそれぞれに自分の考えをより確かなものにする。

### ICT活用のポイント

自分の最初の考えとその後の考えを数直線上に示し、一人の変容した気持ちや考えを共有することによって、他者が参考にすることができる。

### 事例の概要

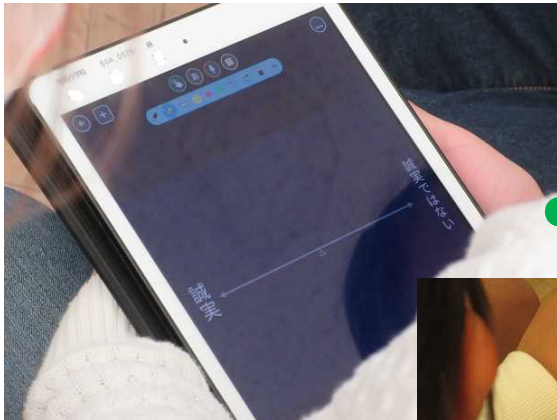
本授業では、教材の登場人物の行為に対して誠実だと思うか、思わないか、自分の考えを数直線上に示す。その後、話し合いを通して変容した気持ちや考えを同じ数直線上に示し、その変化を発表することで、聞いている友達が自分と比較しながら視野を広げて考えることができる。

# 小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

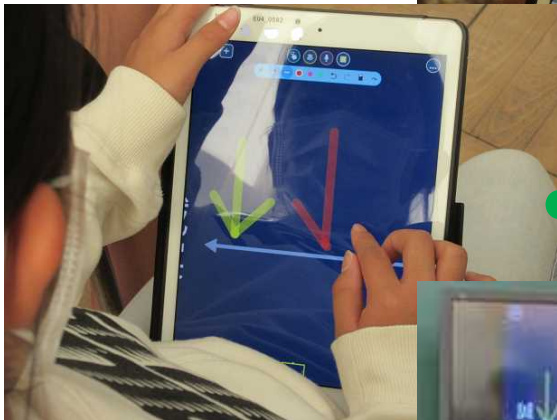
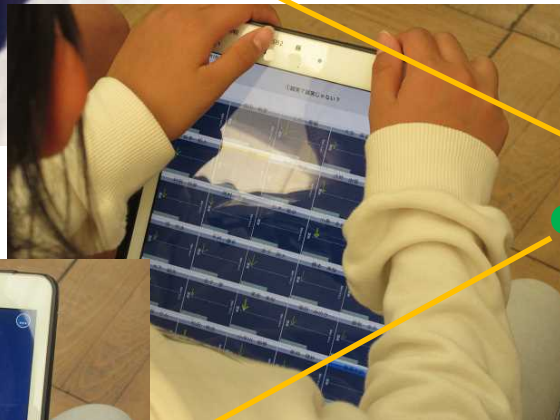
## 内容項目：A 正直、誠実②

～プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能を活用して、考えを表現・共有～

【共有して他者の考えを知る】



【デジタルスライドの数直線に自分の考えを示す】



【変容した考えを矢印で示し、発表する】



【学習の目的】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提として、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、自分の考えを深め、判断し、表現する力などを育む。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

教師が事前に作成したデジタルスライドの数直線を児童のICT端末に送り、児童は、数直線上に自分の考えの傾向を矢印で示す。その後、学習支援ソフトのファイル共有機能を使って学級全体でデジタルスライドを共有し、話合いの後にもう一度同じ直線上に矢印を示す。教師は児童を意図的に指名をしてその変容した考えの根拠を発表してもらう。

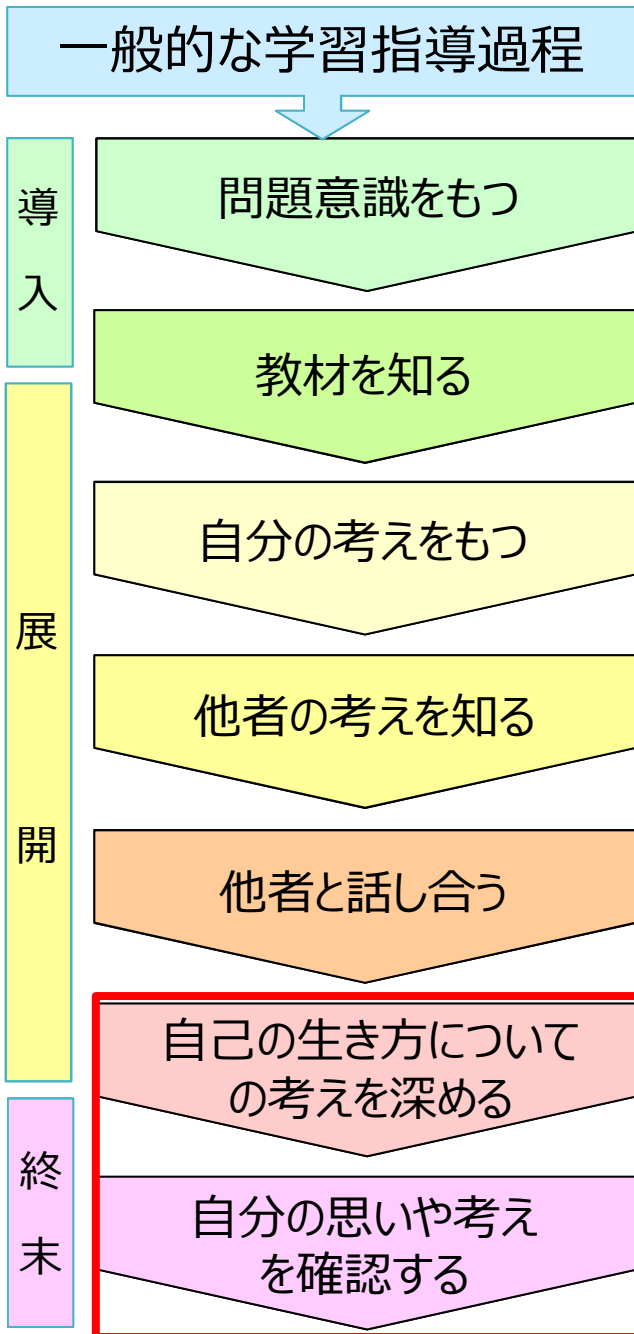
【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを視覚的に知ることができ、自分の考えと比較することができる。
- ・変容した児童の考えが視覚的に捉えやすく、教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握でき、意図的に指名をして、広く深く考えていくことができる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、学習支援ソフトのファイル共有機能

# 小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

## 内容項目：A 正直、誠実①



### 授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

### 活動のねらい

他者と話し合った後、授業を振り返りながら自分の考えをまとめる段階で、他者の考えも参考にしながら自分の考えをより確かなものにする。

### ICT活用のポイント

自分の考えを I C T 端末に打ち込み、共有することによって他者の考えも知ることができる。また、教師も全児童の考えを見渡すことができ、意図的に指名して学級の全児童に紹介することができる。

### 事例の概要

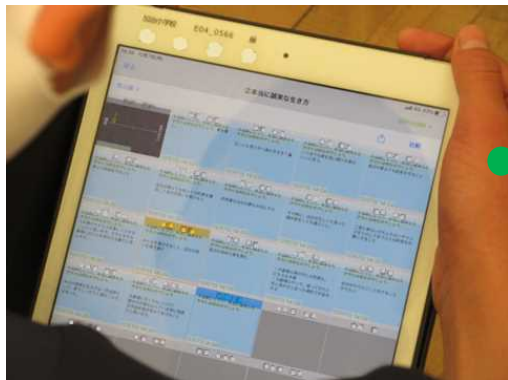
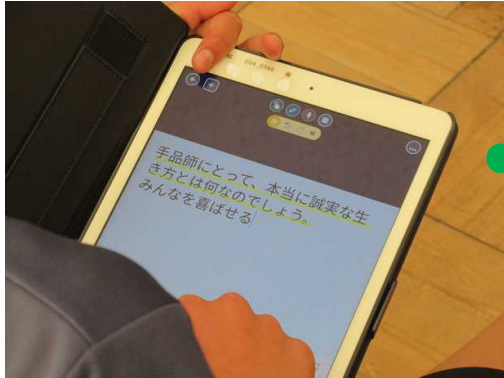
一人一人の児童が、ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題を見つけることができる。また、教師は、全児童の考えが把握しやすく、意図的に指名に生かすことができる。

# 小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

## 内容項目：A 正直、誠実②

～学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフトを活用して、考えを共有・記録～

### 【ICT端末に自分の考えを打ち込む】



### 【意図的に指名をして紹介する】

### 【学習の目的】

道徳科では、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることが大切である。そこで、本時に行われた道徳科の授業を一人一人の児童がしっかりと振り返りながら、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

### 【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

一人一人の児童がじっくりと、本時の授業を振り返りながら、自己の生き方についての考えを深め文字を打ち込んでいく。一人一人の児童がICT端末に打ち込んだ考えについて教師は、共有したり、意図的に共有しなかったりする。なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する。教師は、全児童の内容をICT端末で確認しながら、個別に対応する。

### 【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。
- ・教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができる。
- ・このように毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料として活用することができる。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト